

# Economic Indicators

発表日: 2021年3月2日(火)

## 法人企業統計季報(2020年10-12月期)

～世界経済の回復に伴い、製造業を中心に企業業績は大幅に回復～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

(単位: %)

		全産業			製造業			非製造業		
		売上高	経常利益	設備投資	売上高	経常利益	設備投資	売上高	経常利益	設備投資
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
17年	1-3月期	5.6	26.6	4.5	4.3	70.3	1.0	6.1	10.7	6.3
	4-6月期	6.7	22.6	1.5	4.8	46.4	▲7.6	7.4	12.0	6.9
	7-9月期	4.8	5.5	4.2	3.9	44.0	1.4	5.2	▲9.5	5.9
	10-12月期	5.9	0.9	4.3	4.7	2.5	6.5	6.4	▲0.0	3.0
18年	1-3月期	3.2	0.2	3.4	1.4	▲8.5	2.8	3.9	5.0	3.6
	4-6月期	5.1	17.9	12.8	6.7	27.5	19.8	4.5	12.4	9.2
	7-9月期	6.0	2.2	4.5	4.3	▲1.6	5.1	6.6	4.6	4.2
	10-12月期	3.7	▲7.0	5.7	3.9	▲10.6	10.9	3.7	▲4.9	2.7
19年	1-3月期	3.0	10.3	6.1	1.1	▲6.3	8.5	3.7	18.4	5.0
	4-6月期	0.4	▲12.0	1.9	▲1.2	▲27.9	▲6.9	1.0	▲1.5	7.0
	7-9月期	▲2.6	▲5.3	7.1	▲1.5	▲15.1	6.4	▲3.1	0.5	7.6
	10-12月期	▲6.4	▲4.6	▲3.5	▲6.7	▲15.0	▲9.0	▲6.3	1.1	▲0.1
20年	1-3月期	▲7.5	▲28.4	0.1	▲5.5	▲25.3	▲5.3	▲8.3	▲29.6	2.9
	4-6月期	▲17.7	▲46.6	▲11.3	▲20.0	▲48.7	▲9.7	▲16.8	▲45.5	▲12.1
	7-9月期	▲11.5	▲28.4	▲10.6	▲13.2	▲27.1	▲10.3	▲10.8	▲29.1	▲10.8
	10-12月期	▲4.5	▲0.7	▲4.8	▲5.4	21.9	▲8.5	▲4.1	▲11.2	▲2.6

(出所)財務省「法人企業統計季報」

(注)金融業、保険業除く値。設備投資はソフトウェアを含む

### ○経常利益：前年比での減少幅を大きく縮小。世界経済の回復に伴い製造業は前年を上回る

財務省より発表された20年10-12月期の法人企業統計季報によると、全産業（全規模、金融・保険業を除く、以下同じ）の経常利益は前年比▲0.7%（7-9月期：同▲28.4%）となった。経常利益は7四半期連続の減益となったものの、7-9月期から減少幅を大きく縮小させた。世界経済の回復や日本でも経済活動正常化の動きが進んだことにより売上高が同▲4.5%と減少幅を縮小させたほか、変動費、人件費の減少が経常利益の押し上げに寄与した。

季節調整値でみると全産業の経常利益は前期比+15.5%（7-9月期：同+32.2%）と大幅な増加が続き、水準は20年1-3月期を上回るものとなった。世界経済の回復に伴い、大幅な伸びの続いた製造業（同+31.7%）が収益回復のけん引役となった。一方、非製造業（同+7.5%）は回復が続いたものの、感染防止策の影響を受けやすいサービス業などの持ち直しが鈍く、増加幅は製造業と比較し小さいものとなった。

業種別に見ると、製造業の経常利益は前年比+21.9%と増益に転じた。世界的なペントアップ需要の高まりなどで増収に転じた輸送用機械が同+68.1%（7-9月期：同▲38.8%）と大幅な増益となったほか、はん用機械が同+71.7%（7-9月期：同▲62.9%）、生産用機械が同+71.7%（7-9月期：同▲29.5%）など幅広い業種が増益に転じた。非製造業の経常利益は同▲11.2%と7-9月期から減少幅を縮小させた。建設業が同+41.1%（7-9月期：同▲18.8%）、卸売業、小売業が同+30.4%（7-

9 月期：同▲23.2%) などと増益に転じた一方、外出自粛など感染防止策の影響を受けやすい運輸業、郵便業が同▲102.6% (7-9 月期：同▲114.7%)、サービス業が同▲36.9% (7-9 月期：同▲54.7%) などと引き続き大幅なマイナスとなった。

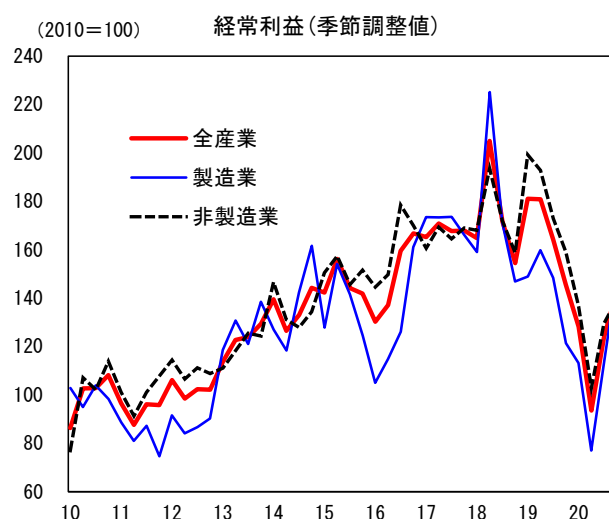
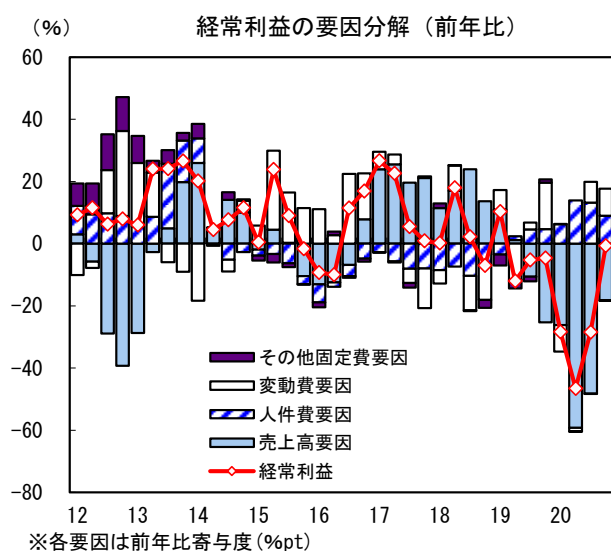
20 年 10-12 月期は世界経済の回復に伴い米国、中国向けを中心に輸出が好調に推移したことなどから製造業は高い伸びをみせた。季節調整値でみると製造業の経常利益の水準は 19 年 7-9 月期を上回るものとなった。一方で、非製造業は GoTo キャンペーンなどもあり回復は続いたものの、新型コロナウイルスの感染拡大が続いた中、サービス業を中心に持ち直しは鈍いものとなった。1-3 月期については緊急事態宣言の影響を受け、景気の下振れが見込まれている。輸出が堅調に推移するなど製造業への影響は限定的とみられるも、外出自粛の動きの強まりなどを受けサービス業を中心に下振れは避けられない見通しである。

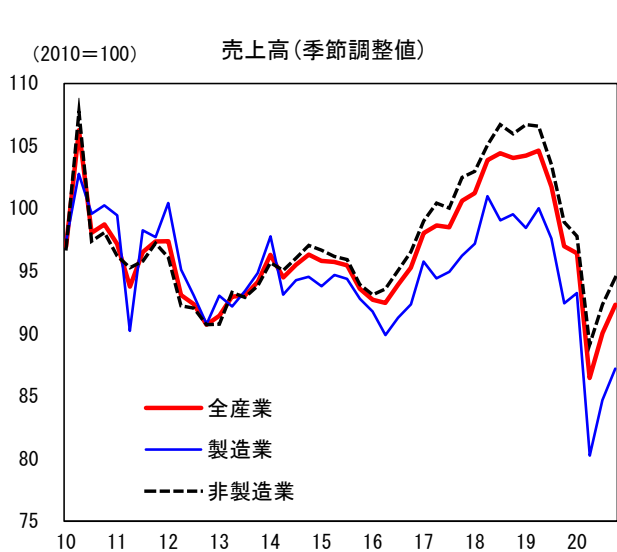
### ○設備投資：企業業績の回復は進むも、前期比で 3 四半期連続の減少。企業の慎重な姿勢は続く

設備投資 (ソフトウェアを含む、以下同じ) は、前年比▲4.8% (7-9 月期：同▲10.6%) と 3 四半期連続の減少となった。製造業が同▲8.5% (7-9 月期：同▲10.3%)、非製造業が同▲2.6% (7-9 月期：同▲10.8%) とともに減少が続いた。

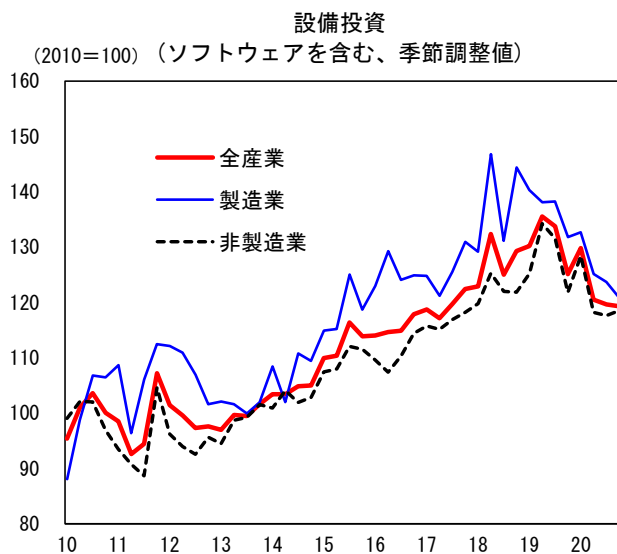
季節調整値でみると前期比▲0.3% (7-9 月期：同▲0.7%) と、設備投資は小幅な減少が続いた。リモート化や 5G 関連需要に対応するための投資が一定の下支えとなったとみられるも、企業収益の大幅な悪化や新型コロナウイルス感染動向の先行き不透明感などから、幅広い業種で設備投資を手控える動きが続いたとみられる。

設備投資は製造業を中心に企業業績が回復していることなどから、設備投資は今後持ち直しに転じるとみられる。もっとも、20 年度の企業業績の悪化や新型コロナウイルスの収束までまだ時間がかかるとみられるなか、設備投資の持ち直しは緩やかなものになるとみられる。





(出所) 財務省「法人企業統計」



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

